

震災復興

がれき撤去に意欲

プロ潜水士の UWSUA認定NPO資格取得

伊東市などのプロの潜水士で組織するアンダーウォータースキルアップアカデミー（UWSUA、村田清臣理事長）がこのほど、県知事から認定NPO法人として認定された。税制上の優遇措置のある認定NPO法人として認められたのは、県内で5団体目。同市では初めて。UWSUAは東日本大震災被災地で港湾の水中がれき処理活動に積極的に取り組んでおり、村田理事長は「認定を受けたことで社会的認知度が高まれば被災地支援の継続に役立つはず。被災地での体験を伊豆半島の防災にも反映させていきたい」と期待を込めて話した。



気仙沼市の港内で絡んだロープの修復作業を行うメンバーたち（UWSUA提供）

UWSUAは2001年に設立され、09年、NPO法人の認証を受けた。民間タイパーの立場で、水難事故発生時の救難・救助への協力やダイビング技術向上のための訓練実施などの活動に取り組んできた。11年の東日本大震災の後、被害を受けた宮城県気仙沼市などの港での活動を開始した。

今回認定NPO法人の資格を取得したのは、資金面を含めて組織体制を強化し、活動を安定的に

継続していくことが目的。認定NPO法人制度は、一定の基準を満たした公益の増進に資するNPO法人への寄付を促し、目的にしており、寄付者と法人が税制上の優遇を受け、UWSUAは、いとう市民活動支援センター・パルの協力を得て県に申請し、事業内容や

運営組織などについての審査を経て認定を受けた。

UWSUAの村田理事長と郊部徹事務局長は27日夕、市役所を訪れて認定を報告した。村田理事長は「信頼度を高めて資金を集め、これまでの活動をより充実させていきたい。被災地での復興支援や海中捜索・海難救助を安全に行うための人材育成、伊豆半島の関係団体との連携体制構築などを進める」と意気込みを語った。

唐桑町観光協会の三上忠文会長も同席した。UWSUAは大震災の後、唐桑半島の「鮪立（しびたち）」「大沢」「津本」などの港で、水中がれき撤去作業を行ってきた。三上会長は「本当にありがたかった。復興はまだ道半ばで、皆さんの力もこれからも欠かせない。引き続き協力をお願いしたい」と訴えた。